

令和 4(2022)年 6 月 6 日
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

2022 年度の「Tokyo Art Research Lab」は、新しいラインアップでスタート。
これからのアートプロジェクトの担い手に向け、配信技術や手話を学ぶ講座、
この10年のアートプロジェクトを振り返るプログラムなどを実施します！



公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の実施する「Tokyo Art Research Lab(TARL)」では、7 月より、「プロジェクトのつくり方を学ぶ」、「プロジェクトの運営の方法を学ぶ」、「運営に必要な技術を学ぶ」の3つの視点で、これからのアートプロジェクトの担い手に向けたプログラムを実施します。

「新たな航路を切り開く」では、数々の現代美術展や芸術祭を手がけ、人と環境の相互作用に焦点をあてながら、社会状況に
応答して発生するアートプロジェクトを見続けてきた芹沢高志をナビゲーターに、この10年のアートプロジェクトと、それを取り巻く
社会状況とを振り返りながら、これからの時代のアートプロジェクトの形を考えていきます。

また、アートプロジェクトの現場に必要な実践スキルの開発やオープンソース化にも力を入れ、アートプロジェクトの運営にまつわる
視点を学ぶ動画シリーズや、配信・収録技術を初歩から学ぶ講座、毎年人気のアートプロジェクトの担い手のための手話講座、ウ
ェブサイトの価値やあり方を考える企画などを展開します。

さまざまな専門家や実践者とともに、プロジェクトの企画や運営に必要な知見やスキル、姿勢を探っていくことで、これからの時代
に求められるアートプロジェクトとは何かを思考し、かたちにすることができる人材やコミュニティの育成を目指します。

↓↓↓ 次項より、プログラムの詳細をご紹介します！ ↓↓↓



Photo: Chihiro Minato

「新たな航路を切り開く」

ナビゲーター: 芹沢高志 (P3 art and environment 統括ディレクター)

来るべきアートプロジェクトの姿を探し求める、旅としてのプロジェクト

この10年で、わたしたちを取り巻く状況はめまぐるしく変化し、それとともにアートプロジェクトの形も多様化しています。これまでの考え方は捉えられないような状況や、炙り出される新たな課題に対して、これからのアートプロジェクトはどのように応答していけるのでしょうか。

この企画では、数々の現代美術展や芸術祭を手がけ、人と環境の相互作用に焦点をあてながら、社会状況に応答して発生するアートプロジェクトを見続けてきた**芹沢高志**をナビゲーターに迎え、**4つのプログラム**を通して、この10年のアートプロジェクトと、それを取り巻く社会状況を振り返り、この10年の間に社会がどのように動き、アートプロジェクトがどのように応答してきたのかを考えたいと思います。

また、これからアートプロジェクトの実践者になりうる人たちとともに、これからのアートプロジェクトの形を考え、新たな時代への新しい航路を見出すことを目指します。

4つのプログラム紹介

対象: アートプロジェクトの企画制作に携わる方、新しいアートプロジェクトを立ち上げたいと考えている方

詳細 URL: <https://tarl.jp/school/2022/newroute/>

■【研究プログラム】 年表をつくるー2011年以降のアートプロジェクトを振り返る **順次公開**

2011年以降に生まれたアートプロジェクトを俯瞰し、年表を制作します。ナビゲーターの視点に加え、多様な実践者達の視点も組み込みながら、社会にひらかれ、成長を遂げるものとして更新していきます。年表をつくるなかで、プロジェクト間の繋がりや、社会との関係、コミュニティとのかかわりなど、新たな分類が見えてくるはずですよ。

■【映像プログラム】 応答するアートプロジェクト | アートプロジェクトと社会を紐解く5つの視点 **順次公開**

独自の視点から時代を見つめ、活動を展開している5名の実践者を招き、2011年からいまへと続くこの時代をどのように捉えているのか、これから必要となるものや心得るべきことについて伺います。またそのなかから、これからの社会状況の変化や、それに応答して発生するアートプロジェクトがどうあるべきかを議論します。この10年を大きく俯瞰し、アートプロジェクトと社会との関係を紐解きます。

公開: TARL 公式 YouTube チャンネル (<https://www.youtube.com/c/tarl302>)

参加費: 無料 (通信料はご負担ください)

視点1 | 前に走って後ろに蹴る ゲスト: 港千尋 (写真家 / 著述家 / NPO 法人 Art Bridge Institute 代表理事)
6月13日(月)公開予定

視点2 | 3.11からの眺め ゲスト: 佐藤李青 (アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー)
6月20日(月)公開予定

視点3 | 生環境構築史という視点 ゲスト: 松田法子 (建築史・都市史研究者 / 京都府立大学准教授)

6月27日(月)公開予定

視点4 | 企業・行政・NPOとの応答 ゲスト:若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/プランナー)
7月4日(月)公開予定

視点5 | フェスティバルの変容 ゲスト:相馬千秋(NPO 法人芸術公社代表理事/アートプロデューサー)
7月11日(月)公開予定

■【映像プログラム】 応答するアートプロジェクト | ケーススタディ・ファイル 6/24(金)ラインアップ発表予定

2011年以降に生まれた多様なアートプロジェクトを取り上げ、どのようにプロジェクトが発生し続いてきたのか、これからどこへ向かおうとしているのかを、実践者が語ります。ひとつひとつのアートプロジェクトを詳細に見ていくことで、社会状況とアートプロジェクトとの連関を捉えます。(全8回実施予定)

公開:TARL 公式 YouTube チャンネル(<https://www.youtube.com/c/tarl302>)

参加費:無料

■【ゼミ形式プログラム】 演習 | 自分のアートプロジェクトをつくる 6/24(金) 詳細発表&申し込み開始予定

アートプロジェクトの立ち上げやディレクションに関心のある方を対象に、ゼミナール形式の演習を行います。状況に対してどのような問題意識をもち、どのようにアクションしていけるのかを、アーティストやナビゲーターとのディスカッション、参加者同士でのワークを通して深めながら、自分のアートプロジェクトを構想していきます。アートプロジェクトを構想し、立ち上げ、動かしていくための力を身につけます。

ナビゲーター: 芹沢高志(P3 art and environment 統括ディレクター)

ゲストアーティスト: 現代アートチーム目 [mé]/小森はるか+瀬尾夏美/濱口竜介

日程:全8回(9/3、9/17、10/1、10/15、10/29、11/12、11/26、12/10) 10:00~15:00

会場:3331 Arts Chiyoda 3F ROOM302(東京都千代田区外神田 6-11-14-302)

参加費:32,000円(税込)

定員:16名 ※書類選考・面接があります。

申し込み方法:TARL ウェブサイト(<https://tarl.jp/school/2022/newroute-seminar/>)から申し込み

申込締切:7/25(月)12:00まで

企画運営:P3 art and environment

ナビゲーター

芹沢高志 | P3 art and environment 統括ディレクター



1951年東京生まれ。神戸大学理学部数学科、横浜国立大学工学部建築学科を卒業後、(株)リジョナル・プランニング・チームで生態学的土地利用計画の研究に従事。89年にP3 art and environmentを開設。99年までは東長寺境内地下の講堂をベースに、その後は場所を特定せずに、さまざまなアート、環境関係のプロジェクトを展開している。帯広競馬場で開かれたとかち国際現代アート展『デメーテル』の総合ディレクター(2002年)、アサヒ・アート・フェスティバル事務局長(2003年~2016年)、横浜トリエンナーレ2005キュレーター、別府現代芸術フェスティバル『混浴温泉世界』総合ディレクター(2009年、2012年、2015年)、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)センター長(2012年~2021年)、さいたまトリエンナーレ2016ディレクター、さいたま国際芸術祭2020参与を歴任。現在はP3 art and environment 統括ディレクター、さいたま国際芸術祭2023プロデューサー。



アートプロジェクトの運営をひらく、〇〇のことば。 [映像講座]

アートプロジェクトの運営を初歩から学ぶ、連続動画シリーズ

まちなかを舞台にする「アートプロジェクト」には、日々の運営にまつわるさまざまなノウハウや事業設計の方法があります。この動画シリーズでは、アートプロジェクトの中間支援を行っているアーツカウンシル東京のスタッフが、**アートプロジェクトの運営に必要な視点や課題**について、書籍『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことば。の本 <増補版>』からテーマを選び、紹介します。

また、アートプロジェクトの視点をさらに深掘りして、現場での実感や具体的な運営手法を学ぶ「実践編」を今秋公開予定です。

【実施概要】

公開：TARL 公式 YouTube チャンネル(<https://www.youtube.com/c/tarl302>)

参加費：無料

対象：アートプロジェクトの運営に携わり始めた方、プロジェクト運営に課題を抱えている方

詳細 URL：<https://tarl.jp/school/2022/kotobabon/>

実施テーマ(予定)：

- ・事務局3人組：アートプロジェクトの第一歩
- ・企画の4点セット 企画／人／お金／時間：プロジェクト運営のための必須項目
- ・活動拠点：拠点となる場を見つけよう
- ・評価への準備：プロジェクトを続けるために など

■『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことば。の本 <増補版>』について



Tokyo Art Research Lab と連動してアーツカウンシル東京が実施する「東京アートポイント計画」事業担当のスタッフ(プログラムオフィサー)が、様々な現場に寄り添う中で出会ったキーワードについて執筆した用語集です。ただの運営マニュアル本ではなく、アートプロジェクトに取り組む人々が、一呼吸ついて立ち止まり、状況や課題意識を共有し、対話するための「ツール」として制作しました。2014年に初版を発行した後、2017年にリニューアルを行い、増補版を発行しました。

書籍についての詳細はこちら https://tarl.jp/library/output/2016/2017_06_kotobabon2/



アートプロジェクトの担い手のための手話講座

ろう者と聴者のコミュニケーションについて考える講座シリーズ

日々の営みのなかで、まち・人・活動をつなぐアートプロジェクト。異なる背景をもつ人々が集い、語り合い、ともに活動をするその現場では、さまざまなコミュニケーションが交わされています。プロジェクトの場や時間をより豊かなものとしているのは、そうした多様なコミュニケーションとの出会いではないでしょうか。

本講座では、言語としての手話を学ぶだけでなく、ろう者と聴者のコミュニケーションの違いや「ろう文化」に触れ、それぞれが現場で活かせるコミュニケーション技術や、アクセシビリティへの視点を育みます。

【実施概要】

本講座は、3ステップで、ろう文化、手話でのコミュニケーションの基礎を体感しながら学びます。

対象:

- ・アートプロジェクトの運営にかかわり、手話を活かしたコミュニケーション力を磨きたい人。
- ・ろう者とともに取り組む、新たな企画を考えている人。
- ・ろう文化を知り、アートプロジェクト運営に活かしたい人。

詳細 URL: <https://tarl.jp/school/2022/signlanguage/>

■ワークショップ:ろう者の感覚を知る、手話を体験する。(対面講座) **申込受付中**

ろう者の感覚を全身を使って学び、手話を体験してみるワークショップ

日程:7/4(月)、7/11(月)、7/25(月) 19:30~21:30

会場:3331 Arts Chiyoda 3F ROOM302(東京都千代田区外神田 6-11-14-302)

参加費:6,000 円(税込) /全3回

定員:10 名程度(先着順)

申込方法:TARL ウェブサイト(https://tarl.jp/school/2022/signlanguage_step1/)から申し込み

申込締切:6/24(金)17:00 まで

■プラクティス:手話と出会う。(オンライン講座) **7月下旬 申込開始予定**

映像教材とオンライン講座の2つの場で、手話でのコミュニケーションの基礎を学ぶ

日程:9/1(木)、9/8(木)、9/15(木)、9/22(木)、9/29(木) 20:00~21:30

会場:オンライン(Zoomを予定)

参加費:7,500 円(税込) /全5回

定員:10 名程度(先着順)

申込方法:TARL ウェブサイト(https://tarl.jp/school/2022/signlanguage_step2/)から申し込み

■コミュニケーション:手話を使い会話する。(対面講座) 8月下旬 申込開始予定

講師やゲストとともに、アートプロジェクトの現場を想定した、手話でのリアルなコミュニケーションを実践できる対面講座

日程:10/13(木)、10/27(木)、11/10(木)、11/24(木)、12/1(木)、12/8(木)19:30～21:30

会場:3331 Arts Chiyoda 3F ROOM302(東京都千代田区外神田 6-11-14-302)

参加費: 14,400 円(税込) /全6回(予定)

定員:10 名程度(選考予定)

申込方法:TARL ウェブサイト(https://tarl.jp/school/2022/signlanguage_step3/)から申し込み

講師

河合祐三子 | 俳優/手話・身体表現ワークショップ講師



北海道札幌市出身。俳優(フリーランス)、NHK E テレ「手話ニュース」「子ども手話ウィークリー」キャスター、手話・身体表現 WS 講師、子ども演劇 WS 講師、TA-net 舞台手話通訳養成講座(2018—2019 年)の指導を行う。2018 年よりサインポエト(手話)と声の朗読、ダンスなどゆるやかに繋がり合うユニット『でんちゅう組』のメンバーになり活動中。

手話通訳

瀬戸口裕子 | 手話通訳士



耳の聞こえない方々の生活に関わる手話通訳を担う傍ら、個人的な活動として耳の聞こえない方と一緒に巡る美術館の作品鑑賞を8年間続けてきた。その後、東京都美術館のとびらプロジェクト「とびラー」になり、ワークショップ「ポッティチエリ・鑑賞・香り～聞こえない方と聞こえる方のサイレントコミュニケーション」や、「アート筆談 de コミュニケーション」などのとびラボを実施した。その経験を活かし「TURN プロジェクト」や東京都写真美術館などアートの現場での手話通訳を担うようになる。また、NPO 法人シアター・アクセシビリティネットワークの会員としてイギリスの演劇における舞台手話通訳の視察研修に参加し、演劇関係のアクセシビリティについても研究中。



アートプロジェクトの担い手のための配信・収録講座

配信・収録技術を初歩から学び、これからのオンライン時代を考える、座学と基礎実践

コロナ禍を経て、アートプロジェクトの企画もオンラインシフト、あるいはオンラインと対面を混ぜたハイブリッドでの開催が日常となりました。事業計画の段階から「オンライン」を想定した企画が飛び交い、あらゆる条件における対応が求められる場面も増えています。

その一方で、急いで身につけた技術への不安や、機材や人材、外注にかけられる予算の限界、あるいは対面開催とのバランスなど、プロジェクトごとにさまざまな課題や条件を抱えていると思います。オンラインだからこそこできることをこの約2年で経験しながらも、そのやり方があっているのか、ほかにどのような選択肢があるのか、今後に備えてどこまで準備をしておくべきなのか…など、改めて、「配信・収録」に向き合うにあたって、「そもそも」を知りたいという方も多いのではないのでしょうか。

全3回にわたる本講座では、マイクやカメラの仕組みなど、「配信・収録」のための基礎的な知識・技術について学び、実践するとともに、オンラインの可能性や限界を踏まえた企画制作について考えます。

【実施概要】

日時:

8/21(日)13:00～16:00 「座学 | 収録・配信に必要なマイクやカメラの操作方法」

8/28(日)13:00～16:00 「実践 | 配信内容に応じて機材を組んでみる」

9/4(日)13:00～16:00 「本番 | 収録・配信に挑戦する／オンライン時代を考える」

会場:3331 Arts Chiyoda 3F ROOM302(東京都千代田区外神田 6-11-14-302)

参加費:一般 6,000 円 学生 4,500 円 / 全3回

定員:10 名程度(先着順)

対象:

- ・アートプロジェクトや文化事業の運営や、企画の発表に活用するため、配信や収録についての技術を初歩から学びたい方
- ・アートプロジェクトや文化事業の現場で、オンライン担当を任されることがある、あるいは予定があるが、基礎的な知識や技術に不安を感じている方

申込方法:TARL ウェブサイト(<https://tarl.jp/school/2022/online/>)から申し込み

詳細 URL:<https://tarl.jp/school/2022/online/>

講師

齋藤彰英 | 写真家



1983年静岡生まれ。2009年東京藝術大学大学院先端芸術表現 修士課程修了。地形と水の関係性をフィールドワークを通してリサーチし、写真を主とした表現活動を行う。また創作活動と並行し、NPO 法人 Art Bridge Institute や複数のアートプロジェクトに参加し、アーティストやアートプロジェクトのための映像記録・配信を行っている。多摩美術大学情報デザイン学科、日本工学院八王子専門学校 CG 映像科非常勤講師を兼任。



Web サイトの価値や在り方を考える

制作チームでウェブサイトをとともに考えるためのガイドマップづくり

2021 年度に実施した講座「これからの Web サイトについて考える」では、編集者、広報担当者、デザイナー、エンジニアなど、さまざまなメンバーがディスカッションを重ね、ウェブサイトの制作過程に立ち現れる7つのもやもやへの向き合い方(指針、モノサシ)をまとめ、「ウェブもやもや事典」としてインターネット上に公開しました。

本企画では、その成果をもとに、ウェブサイトをつくるための目的や手順をクライアントやデザイナー、エンジニアら制作チームで共有するためのツールを制作します。ウェブサイトをつくる際は、事業の目的を改めて見つめ、整理していく作業が必要になります。制作したツールは、進め方に悩みがちなウェブサイトの制作プロセスをひらくとともに、アートプロジェクトをはじめとした事業設計を、チームで見つめ直すためのガイドマップとしてご活用いただけるものとして公開します。

【実施概要】

日時: 今秋～冬頃 公開予定

詳細 URL: https://tarl.jp/school/2022/web_book/

■「ウェブもやもや事典」について

ウェブ制作にあたって現れる「モヤッとする疑問」と向き合い、折り合いをつけるためのモノサシを収集・公開しています。

疑問の例: 短期的な評価、長期的な価値／ウェブと費用と手間／アーカイブデザイン／誤配についてもやもや／人柄や内面や周辺情報の伝え方／かっこよさと実用性／情報保障とアクセシビリティ

詳細はこちら <https://tarl.jp/library/output/2021/webmoyadex/>

企画制作

萩原俊矢 | ウェブディレクター



1984 年、川崎生まれ。プログラミングとデザインの領域を横断的に活動しているウェブデザイナー、ディレクター。セミトランススペアレント・デザインを経て 2012 年に独立。ウェブデザインやネットアートの分野を中心に企画・設計・実装・デザイン・運用など、制作にかかわる仕事を包括的に行う。2015 年から 2021 年にかけて多摩美術大学統合デザイン学科、2021 年より京都精華大学非常勤講師。IDPW.org や TRANS BOOKS などのアートプロジェクトに携わり、文化庁メディア芸術祭新人賞や東京 TDC RGB 賞などを受賞。

編集・監修

西山萌 | 編集者



多摩美術大学卒業後、出版社入社。雑誌『PERK』のエディター、デザイナーを経て独立。『TOKION』のリニューアル創刊に携わるほか、本と編集の総合企業 SPBS では編集的遊び場「SPBS THE SCHOOL」の立ち上げに参画。編集を基点にリサーチや企画立案、取材執筆、キュレーションや場所作りなど。フィールドを横断して人や物事、空間や価値観の交わりを探し、束ねたり編んだり解けたり、雑誌的な編集から生まれる新たなクリエイションの形を模索中。

Twitter @moe.ninnjinnlove

その他、各プログラムの詳細等は、Tokyo Art Research Lab 公式ウェブサイト(<https://tarl.jp/>)をご覧ください。

※内容は変更となる場合がございます。最新情報は上記ウェブサイトでご確認ください。

Tokyo Art Research Lab とは？

Tokyo Art Research Lab(TARL)は、アートプロジェクトを担う全ての人々に開かれ、ともに作りあげる学びのプラットフォームです。

アートプロジェクトの企画・運営に必要な知識やスキルを実践的に学ぶ「講座・演習」、現場の課題に応じた新たなスキルの検証と確立を目指す「研究・開発」、TARL で開催されたプログラムの記録やアートポイント計画で取り組んだ事業の成果物を公開している「図書室」の3つを軸に、さまざまな活動を行っています。

人材の育成、現場の課題に応じたスキルの開発、資料の提供やアーカイブなどを通じ、社会におけるアートプロジェクトの可能性を広げることを目指しています。

* 本事業は、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の人材育成事業として実施しています。また、「東京アートポイント計画」と連携し、相互にフィードバックをしながら展開します。

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

<https://tarl.jp/>

アーツカウンシル東京とは？

世界的な芸術文化都市東京として、芸術文化の創造・発信を推進し、東京の魅力を高める多様な事業を展開しています。新たな芸術文化創造の基盤整備をはじめ、東京の独自性・多様性を追求したプログラムの展開、多様な芸術文化活動を支える人材の育成や国際的な芸術文化交流の推進等に取り組めます。 <https://www.artscouncil-tokyo.jp>

お問い合わせ

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
事業部 事業調整課 事業調整係（担当：岡野、小山）
TEL：03-6256-8435（平日 10:00～18:00）
E-mail：tarl@artscouncil-tokyo.jp